

1 4	岡崎	額田中学校	カトウ アカネ
		氏名	加藤 茜
分科会番号	14	分科会名	特別支援教育

1 研究題目

行い方を工夫し、自ら進んで運動に親しむ生徒の育成
—保健体育科「アスレチックランド」の実践を通して—

2 主題設定の理由

本学級は、自閉・情緒障害学級で、3年生3名、2年生1名、1年生2名の6名が在籍している。本学級の生徒は、それぞれが異なる特性をもっており、自分の得意なことに対しては前向きに取り組むことができるが、そうでないことに対しては、やろうとしなかったり、強い不安を感じたりする様子が見られる。また、教室で話を聞く姿勢を見ていると多くの生徒が猫背であることや、休み時間などに机に突っ伏す、マットの上に寝転がるといった姿勢をとることが多いことから、自分の体を支える力が弱いことも感じとれる。

特別支援学級における保健体育の授業では、準備体操やストレッチにおいて体が極端に硬かったり、筋肉を伸ばす動きを痛がったりするなど、体の使い方にぎこちなさが見られる。身体感覚の特性から、柔軟性やバランス、体の動きを調整することに困っている生徒が多いことがわかる。また、活動の中で、教師から提示された単純な運動を言われたとおりに行うことはできる一方で、やや複雑な動きを求められたり、自分の苦手とする運動が取り入れられたりすると、うまくできなくなり、どうしたらできるようになるか考えるより先に、諦めてしまう姿も多く見られる。これらのことから、身体感覚のアンバランスさや体の使い方の不器用さによって、自分の体がコントロールできないもどかしさを感じていることが伺える。

保健体育科の「体づくり運動」は、評価の観点が「技能」ではなく「運動」とされている唯一の領域で、技能の高まりより生徒が体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、運動を通して心と体をほぐしたりすることを目指している。本実践を「体づくり運動」の「体ほぐしの運動」として行い、活動内容を生徒の発達特性に合わせたものにするすることで、生徒が楽しみながら体の緊張をほぐすことを期待したい。また、活動の中に6月に行われる体育大会の陸上種目につながる運動も取り入れる。さまざまな運動経験から体の使い方を知り、生徒自身が運動の行い方を工夫できるようになることで運動の効果が高まり、技能が求められる運動にも生かされていくのではないかと考えた。

本研究では、生徒が「こうしたい」という思いをもつことができる場の設定や「どうしたらよいだろう」と考えることを促す課題設定によって、行い方を工夫して運動に取り組む姿をねらいたい。また、一人一人の生徒の得意を取り入れたり、役割を与えて自己有用感を高めたりすることで「これならできそう」「もっとやりたい」という思いを引き出し、自ら進んで運動に親しむ生徒を育てたい。

3 研究の方法

(1) 目指す生徒像

- | |
|--------------------|
| ①運動の行い方を工夫して活動する生徒 |
| ②自ら進んで運動に親しむ生徒 |

(2) 仮説

【仮説 1】

運動の仕方に幅をもたせたり、活動に選択肢を与えたりする場の設定や活動（課題）の難易度を段階的に上げることで、行い方を工夫して活動することができるであろう。

【仮説 2】

さまざまな運動に触れて得意を見つける中で、一人一人の得意を生かした活動を取り入れたり、役割を与えたりすることで、自ら進んで運動に親しむことができるであろう。

※「運動の行い方を工夫する」姿とは、運動を行う中で行いやすいように用具の置き方やルールを工夫する、自分の運動の仕方を生かして次の運動の仕方を変えろといった姿と定義する。「自ら進んで運動に親しむ」姿とは、自分の意思をもって活動する姿、活動に参加できる時間を前時より伸ばしたり、1時間参加し続けたりできる姿と定義する。

(3) 手だてと抽出生

【仮説 1 に対する手だて】

A：活動の仕方に幅をもたせたり、活動に選択肢を与えたりし、用具の位置、ゲーム中の細かいルール、活動内容などを生徒自身が決定できるようにする。

B：生徒の運動の様子を見ながら、活動の内容（課題）の難易度を段階的に上げる。

【仮説 2 に対する手だて】

C：さまざまな運動を実際に行ったり、行っている様子を見たりする姿から、生徒の得意を見つけ、そこで見つけた得意な（前向きに取り組める）運動を活動の中に取り入れる。

D：保健体育に限らず日常生活における得意なことや好きなことを生かした役割を与える。

【抽出生 A について】

1年生のAは自閉スペクトラム症をもつ生徒である。数学やプログラミングが得意で、タブレットを巧みに使いこなし、複雑な計算も筆算など行わず頭の中で解くことができる。一方で、特性上初めてのことにに対する苦手意識が強く、保健体育の授業に限らず初めての活動をするときは参加せずに見ていたいという意思を示すことが多い。

小学校の頃は、体育に対してさまざまな教科の中でも特に「嫌い」「苦手」という思いが強かった。中学校の保健体育で体力テストを行うと、走る運動や筋肉を使う運動に嫌悪感を示した。1時間の授業において、1時間見学していたり、終わりの10分程度活動に参加できたりしている現状があった。得意なことや好きなことがあるAの強みを生かして、保健体育へも前向きになれる授業を実践したい。本研究を通してAの変容を追うことで、実践の有効性を検証する。

(4) 研究計画

本実践は、以下の単元計画をもとに授業実践を行い、有効性を検証していく。

1 単元「アスレチックランド」（体ほぐしの運動）

2 単元で育てたい資質・能力

①運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方を理解し、姿勢を保つ、バランスをとる、体を移動させる、物を操作するといった運動の能力を高めることができる。
(知識及び運動)

②より楽しく運動ができるように活動を選択したり、運動が行いやすいように用具の置き方やルールを考えたり、実際に試したりして行い方を工夫することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

3 単元計画（6時間完了）

時間	学習課題	活動内容
1	用具の置き方を工夫してアスレチックランドを楽しもう	ダンボールハードル、スクーターボード、ケンケンパ、お手玉ビンゴをチーム対抗で行う
2	何センチの池を越えられるかな	池とび
3	的に当てて何点取れるかな	的当てをやってみる
4	的当てが楽しくなる工夫をしよう	得点を工夫して的当てを行う
5	助走をつけて的当てできるかな	助走をつけて的当てを行う
6	自分たちでアスレチックランドを作ってみよう	さまざまな運動を組み合わせてアスレチックランドをつくる

4 実践と考察

以下に手だての有効性について検証しながら実践について述べていく。

①役割を果たしながら活動に参加する生徒A

第1時では、さまざまな運動を味わってみる（手だてC）活動として「アスレチックランドを楽しもう」を行なった。活動内容として、姿勢を保つ、バランスをとる、体を移動させる、物を操作するといった要素を含む4つの運動を提示し、それぞれ用具を置く位置を自分たちで考えて置くよう指示した。（手だてA）Aにとって初めての活動ばかりで、Aは「見てる。」と言って皆が活動する様子を座って見ていた。ダンボールハードル、スクーターボードに対しては「走るのは疲れる。」「あれ（スクーターボード）は危険。」と言ってやろうとしなかったが、ケンケンパは、皆が輪を並べて試技する姿を見て「やる。」と言って、参加した。（資料1）片足や両足でジャンプして置いてある輪に着地し、相手と出会ったらじゃんけんをするAの姿が見られた。その流れでお手玉ビンゴの活動に入ると、「投げるのはできる。」と言って活動に参加することができた。



資料1 ケンケンパに参加するA

第2時では、第1時にAが前向きに取り組むことができたケンケンパで、片足や両足でジャンプする動きが見られたことと、体育大会の陸上種目に幅跳びがあることから、前時のケンケンパと似た動きをする運動かつ幅跳びにつながる運動として「池とび」を提示した。（手だてC）ブルーシートを材料にさまざまな長さの池（100センチ、150センチ、200センチ、250センチ、300センチ）を用意し、「これを跳べるかやってみよう。」「短いから挑戦してみよう。」（手だてB）と投げかけた。助走の位置は指定せず、「どの位置から跳んでも、どこから走ってもいいよ。」とした。（手だてA）そして、Aに「みんなが跳べたかどうか記録してくれる？」と言い、記録係の役割を与える（手だてD）と「任せて!」と言ってタブレットで記録表を作り始めた。Aは初め、座って皆が跳ぶのを見てその度に跳べた距離をタブレットに記録していたが、自分の番が来ると立ち上がってマットの端から50センチほど手前に立ち、跳んでみせた。（資料2）100センチ



資料2 100センチの池に挑戦するA

の池を跳ぶことができると、そのまま 150 センチの池にも挑戦していた。その後、さらに長い 200 センチの池を設置すると「できるかな。」と言いながら再度挑戦した。また、そのときには、他の生徒が助走の距離を伸ばして跳んでいる様子を見て、Aも助走距離を長くして跳ぶ姿が見られた。(資料3) 200 センチの池は跳び越えることはできなかったが、それ以降も、他の生徒と一緒にさらに長い池にも挑戦する様子が見られ、この日は一時間を通して活動に参加することができた。



資料3 200 センチの池に挑戦するA

この日、授業が終わるとAは「先生、できたよ。」と記録表を教師に見せてくれた。Aがつくった記録表を見ると、挑戦した池に対して成功できたかどうかではなく、跳んだ池の長さから、その生徒が何センチ跳んだかを記録し、さらにそれを自分なりの計算式で得点化していた。(資料4)

記録表	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	得点
1	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	100
2	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	150
3	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	200
4	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	250
5	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	300
6	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	350
7	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	400
8	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	450
9	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	500
10	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	550
11	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	600
12	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	650
13	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	700
14	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	750
15	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	800
16	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	850
17	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	900
18	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	950
19	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1000
20	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1050
21	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1100
22	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1150
23	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1200
24	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1250
25	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1300
26	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1350
27	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1400
28	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1450
29	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1500
30	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1550
31	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1600
32	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1650
33	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1700
34	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1750
35	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1800
36	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1850
37	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1900
38	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	1950
39	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2000
40	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2050
41	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2100
42	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2150
43	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2200
44	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2250
45	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2300
46	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2350
47	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2400
48	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2450
49	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2500
50	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2550
51	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2600
52	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2650
53	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2700
54	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2750
55	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2800
56	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2850
57	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2900
58	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	2950
59	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3000
60	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3050
61	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3100
62	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3150
63	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3200
64	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3250
65	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3300
66	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3350
67	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3400
68	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3450
69	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3500
70	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3550
71	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3600
72	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3650
73	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3700
74	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3750
75	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3800
76	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3850
77	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3900
78	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	3950
79	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4000
80	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4050
81	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4100
82	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4150
83	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4200
84	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4250
85	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4300
86	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4350
87	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4400
88	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4450
89	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4500
90	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4550
91	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4600
92	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4650
93	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4700
94	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4750
95	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4800
96	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4850
97	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4900
98	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	4950
99	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	5000
100	100cm	150cm	200cm	250cm	300cm	350cm	400cm	5050

資料4 Aがつくった池とびの記録表

第1時、第2時の様子から、第1時では参加できる種目とそうでない種目があったAだが、第1時で前向きに取り組むことができた運動に似た運動を第2時に取り入れ、記録係という役割を与えたことで1時間を通して活動に参加することができた。また、池の長さを徐々に長くしたことで、池の長さに合わせて助走距離を変えるというように工夫する様子も伺える。

②ルールを工夫し、運動の仕方に変化を見せる生徒A

第1時でAは、お手玉ビンゴの活動に前向きに取り組んでいた。また、「体育大会何に出たい？」と尋ねた際に「うーん、ボール投げかな。」と答えたことから、ボールや玉を投げる運動を得意としていると捉え、第3時は「的当て」を提示した。(手だてC) 観覧席からの的を吊るし、「投げる位置はこの線より後ろならどこでもいいよ。」(手だてA)と言い、教師が一番手前のラインから後ろに向かって2mごとにコーンを置いた。(資料5) Aは、「じゃあ俺が記録とるね。」と自ら言い、記録係をしながら(手だてD) 自分も的に向かって玉を投げた。



資料5 的と投げる位置を示すコーン

第3時では、それぞれが自分の好きなところから玉を投げ、的に当たったらその数がポイントになるというシンプルなルールでゲームを行ったが、第4時に同じように

「的当て」を行っているとAはポイントの付け方について新たなルールを提案した。

(資料6) 第3時では、一番手前のコーンから投げていたAだったが、第4時で自らルールを加えると、二つ後ろのコーンから足を一步踏み込ん

T1: 前回やった的当て今日もやってみようか。
A1: 今日はどうやってやる?
T2: どうやってやろうね。投げる位置は今日もコーンのところね。
A2: 投げる位置によってポイント増やす?
T3: いいね、どういうふうにする?
A3: 一つ後ろのコーンから投げたら×2、その後ろなら×3……一番後ろから投げたら×7にする?
T4: おー、いいね、みんなどう?
(他の生徒): いいね!

資料6 第4時 Aと教師の会話



資料7 一步踏み込んで投げるA

で投げる姿が見られた。(資料7)しかし、投げる位置を遠くすることでの的にボールが当たらなくなったAは、その後再び自分の順番が回ってくると、投げる位置を一つ前のコーンに変えて投げていた。

第5時は、体育大会のボール投げにつなげるため、助走を課題に加えて引き続き「的当て」を行なった。教師が「今日は投げるときに助走ができるといいね。」(手だてB)と言うと、Aは「じゃあ助走付きでできたらボーナスポイント×2!」と新たなルールを提案した。Aは、他の子の動きも見て真似たり「1、2、3」とつぶやいたりしながら三步助走をつけて投げていた。(資料8)第3時から第5時は、いずれも一時間を通して活動に参加することができた。

第3時に投げる位置に選択肢を与えたことで、第4時にAが自分なりに得点のルールを工夫したり、ルールに対して自分が多く得点できるように投げる位置を考えたりする様子が伺える。また、第5時のAの姿からは、課題の難易度を上げ、A自身がルールを追加したことで、投げる前の体の使い方が変化したことがわかる。



資料8 助走をつけて投げるA

③自分の得意を取り入れて場を考える生徒A

第6時では、これまでに体験した運動やまだ体験したことのない運動など全16種類の種目(資料9)の中から自分がやりたいものをそれぞれが選択し、(手だてA)一つのアスレチックランドをつくる活動を行った。この日は気持ちが乗らなかったようで、体操服に着替えようとせず、制服での参加となったAだったが、並べられた運動カードを見て、その中から「的当て」を選んだ。「的を吊るすのは先生手伝うから、あとは自分で置く場所考えてごらん。」(手だてA)と教師が言うと、Aは教師とともに的を吊るし、そのあとはコーンを持って投げる位置を考えている姿が見られた。コーンを並べて「この辺が一番前かな。」とつぶやいたり、足の幅を広げてコーンの間隔を調整したりしている様子だった。(資料10)何度か自分で玉を投げ(資料11)、的に玉が多く当たると「これでOK。」と教師に伝えた。



資料9 提示した16の運動種目

Aが準備する裏で他の生徒も好きな種目を選んで用具を配置し、アスレチックランドが完成した。「じゃあ順番にやってみるよ。」と教師が言うと、Aは「俺はやらないよ、記録する。」と言って他の種目はやろうとしなかった。それでも、記録を取りながら、他の生徒が取り組む様子はじっと見ていた。そして、他の生徒がAが準備した的当てに取り組もうとすると「後ろのコーンにいけばいくほど、ポイントアップだよ!」と声をかける姿が見られた。

第6時のAの姿から、Aが第3時から5時に何度も取り組んだ的当てを自ら選び、これまでの経験を生かして投げる位置や得点を考える様子が伺える。繰り返し取り組んだ的当ては、自ら試技するなど、安心して進んで取り組むことができる一方で、これまで見るだけだった運動や初めて見る運動に対してはやはり抵抗感が強いことがわかる。



資料10
コーンの間隔を調整するA



資料11 試技を繰り返すA

5 成果と課題

(1) 成果

【仮説1に対する手だての検証】

手だてA 第2時の池とびで跳ぶ位置を自由にしたことや第3時から第5時の的当てで投げる位置を選択させたり、細かなルールを教師が定めなかったりしたことで、Aが自分で助走や投げる位置を調整したり、ルールを考えたりする姿が見られた。第6時で活動内容を選択させたことで、Aは自分が安心して取り組むことができる運動を選び、自ら考えて場をつくり、活動できたと考えられる。

手だてB 第2時では、池の長さが長くなるにつれ、Aが助走距離を伸ばして跳ぼうとする姿が見られ、第4時では的当てにルールが加わったことでより後ろから投げることで確実に的に当てることの間で葛藤し、何度か投げてみる中で自分の投げる位置を調整する姿が見られた。第5時では課題に助走を加えたことで、投げる前の助走動作に変化が生まれた。課題の難易度が上がったことで、どうしたらできるか考えたり、他の子を真似たりして試行錯誤し、次の運動の仕方を変えることができたと考えられる。

これらのことから、手だてA、Bは行い方を工夫して活動するために有効であったと言える。

【仮説2に対する手だての検証】

手だてC 第1時に、運動種目としては4種類だが、さまざまな体の使い方を要する運動を行ったことで、Aが何を苦手とし、得意としているかを見極めることができた。このときにAが運動を経験したり、実際に行わなくても様子を見たりしたことが、第2時からの活動にスムーズに入ることにつながったと考えられる。第1時の活動の様子から、Aの得意とする運動を捉え、同じ要素をもつ運動として池とびの的当てを提示した。これまで10分程度しか活動できなかったAが池とびの的当てでは、1時間を通して活動に参加することができたことから、運動に親しむことができたと考えられる。

手だてD 第2時で記録係の役割を与えられたAは、第3時には自ら記録係を申し出ている。このことからAが役割を与えられたことに存在意義を見出しており、さらに記録をとるという使命が自分も運動に取り組んでみるという意欲につながったと考えられる。計算が早く、機械操作を得意とするAが第2時に作り上げた記録表からも、Aが得意なことを発揮して役割を果たしていることがわかる。このことから、自分の意思をもって活動することができたと考えられる。

これらのことから、手だてC、Dは自ら進んで運動に親しむために有効であったと言える。

仮説1、2の立証により、本研究の主題は達成された。

(2) 今後の課題

本実践を行っていく中で2つの課題が浮き彫りになった。一つ目は、不得意、好きではないことを活動の中にどう取り入れていくかということである。本実践を通して、体を動かすこと自体にネガティブなイメージを抱いていても、得意なこと、好きなことを取り入れることで、進んで運動に親しめることは立証できたが、第6時の姿からも不得意なこと、初めてのことはやはり抵抗感が強い。さまざまな運動をバランスよく経験するために、不得意なことにも取り組むことができる授業実践を考える必要がある。そして二つ目は、他者との関わりの取り入れ方である。本研究では、他者との関わりをもつことを主題としていないが、Aは自分が活動に参加していないときも、他の生徒が活動する様子を真剣に見ていたり、課題の難易度が徐々に上がる中で、他者の動きをよく見て真似たりしながら取り組んでいることが伺えた。生活したり、授業に取り組んだりする上で他者との関わりは不可欠であり、重要な要素として考えられることから、今後は他者との関わりをきっかけに不得意な運動にも取り組むことを目指した実践を検討したい。